

ハンマーナイフモアによる省力台切り更新法

利用対象：茶生産者



技術の特徴

① 飛躍的な台切り作業省力化

茶園の台切り作業が10aあたり約1時間で可能になります(表1)。

② 顕著な品質の向上

3年目一番茶から収穫可能で、荒茶品質の向上が顕著に見られます(図1)。

③ 台切り直後の施肥が効果的

台切り直後に施肥をすることにより、後の枝条発生が盛んになります(図2)。

表1 台切り更新作業時間

作業工程	所要時間/10a
粉碎 1回目	27分
旋回 同一畦へ	9分
粉碎 2回目	21分
旋回 隣接畦へ	9分
計	1時間06分
参)チップソーでの作業の場合	22時間22分

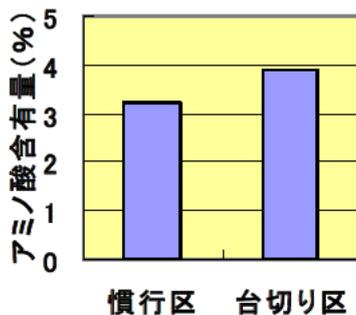


図1 台切り更新茶園の荒茶品質

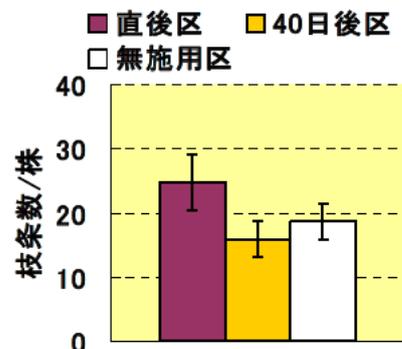


図2 台切り処理後の施肥時期と生育

1. 背景とこれまでの課題

茶園の更新法としての「台切り」は更新効果の高い方法として知られていますが、実際の処理作業には多大な労力を要します。このため、茶園面積が大きくなった現在ではほとんど実施されていません。一部には、裂傷型凍害など寒害をうけた場合に被害部分の更新を目的に台切りが行われますが、茶園全体の更新には実施されにくい状況にあります。

2. 成果の概要

近年、河川敷などの荒野での除草機として用いられているクローラ走行型ハンマーナイフモアを茶園の台切りに用います。直接、茶うね上で茶樹を破砕しながら進行していきます。2回の作業に分けて行うことで（刈り高を1回目地上約30cm、2回目約15cmに設定）、枝条を残すことなくせん除処理ができます。

(1)10aあたりの作業時間は約1時間で、刈り払い機を用いた人力によるせん除作業に比べ、台切り更新処理作業が飛躍的に省力化できます。

(2)処理後の茶株は回転するフリーハンマーにより激しく損傷しますが、そのまま放置しておいても再生・回復し、処理3年目の一番茶から収穫が可能です。

(3)台切り後の施肥は、処理直後に施用（8kg N/10a程度）することで、後の発生枝条数が多くなります。

(4)更新後の荒茶はアミノ酸含有量が増加し、品質の向上が顕著にみられます。

(5)処理後から再収穫までの枝条管理法などを体系化した技術マニュアルを作成し、農業研究所のホームページで公開しました。

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/>

3. 成果の慣行技術への適合性と経済効果

(1)改植による茶樹の更新や品種の入れ替えと並行して、短時間で効果の得られる更新法として活用できます。

(2)クローラ走行型ハンマーナイフモアは土木分野で汎用的に使われていることから、これら異業種が作業を請け負ってくれることで、台切り更新の普及が期待できます。

4. 普及上の留意点

(1)処理後の気象状況（気温・降水量）や病虫害の発生状況によっては、枝条の回復が遅れる場合があります。

(2)処理は熟練したオペレーターが作業を行い、転倒等の事故に気を付ける必要があります。

お問い合わせ先	茶業研究室 松ヶ谷祐二 電話0595-82-3125
参考になる資料	
研究実施予算	伊勢茶リフレッシュ支援技術開発事業